

【別紙】令和7年度 学校自己評価重点目標シート（川口市立高等学校附属中学校）

(A4判横)

学校教育目標	未来を創る しなやかでたくましい人材の育成
目指す学校像	未来を創る しなやかでたくましい人材を育成する川口市のリーディング校 一さらなる選ばれる学校づくり

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※学校関係者評価実施日とは、学校関係者評価委員会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者
学校関係者（教職員を除く） 4名
事務局（教職員） 6名

学校自己評価						
領域	年度目標		年度評価（令和8年1月30日現在）			
	現状と課題	重点目標	具体的な方策	重点目標の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
組織運営	・開校4年目の昨年度は、生徒、保護者、教員の声を反映させた改善を行うことができた。5年目の今年度は、高校との連携をさらに深めることで、中高一貫校としての学校運営の軸を確立する。 ・次年度の募集拡大が決定したことから、市教委、高校との連携を更に密にし、遗漏の無いように準備を進める。	○高校や市教委との連携を更に強化し、中高一貫校としての学校運営の軸を確立する。  □高校との連携において、教員レベルでの連携を強化し、一貫校としての魅力アップにつなげる。  △募集拡大に向けて、見通しを持った準備を行う。	○高校、高校事務室、市教委との連携を、定期的・継続的に行い、安定した学校運営につなげる。  □高校における中学生の授業担当者、一貫生担当者、総合的な探究の時間担当者等の交流を推進する。  △市教委、高校と連携し、施設・設備、人員、カリキュラム等の準備を見通しをもって行う。	○定時の打ち合わせに限らず、日常のコミュニケーションを意識して行うことで、中高の連携が深まった。  □教科指導の面においても、昨年度よりも連携が深まった。特に、探究学習においては、定期の担当者会議の開催により、6年間を見通した学びや、ゼミ形式の学習など、具体的な成果が上がった。  △教室配置計画策定のための検討会議を定期で開催し、共通理解を図った上で計画を策定できた。	A	△募集拡大に伴う準備については、教育委員会・高校・中学校の連携に課題が残った。今後は、市教委の教育政策室を中心に、円滑な連携を進めたい。
	・昨年度は、教育課程について質・量の両面から見直し、改善を行うことができた。今年度は、高校との連携をさらに推進し、一貫校として教育内容の更なる充実を図る。 ・生徒は何事にも主体的に取り組む姿が見られる。今後も生徒一人一人を大切にした教育活動を展開し、愛校心を育み、伝統を作っていく。	○「よき学習者」としての資質を育成する教育活動を行う。  □中高一貫校として、6年間を見通したカリキュラム作りを更に推進する。  △生徒を主語にした教育活動を展開することで、生徒一人一人に自己効力感を育み、附属中生としてのプライドを持った状態で高校へ繋ぐ。	○主体的、対話的で深い学びを中心とした授業を行うとともに、学習面談等を通じて自己効力感を育成する。  □総合的な学習の時間や、特別活動における探究的な学びを高校の総合的な探究の時間につなげるなど、6年間の一貫性のあるカリキュラム作りを推進する。  △全ての教育活動において、生徒に判断、決断、実践させることにより、成就感、達成感、他者貢献等を味わわせ、非認知能力を育む。	○対話的な学びが本校の特色として、どの教科でもスタンダードになり、学校訪問でも高い評価をいただいた。学習面談の効果もあり、全体の学力向上につながった。  □高校と連携した学びを創り始めることができた。	A	□探究を中心とした連携は進み始めたこと自体は大きな進歩であるが、カリキュラム作りはまだ時間がかかる。今後も更に取組を進めたい。
	・市内への周知は軌道に乗り、安定した倍率を確保できている。 ・生徒の生き生きとした姿を発信することが最大のアピールになっているため、今後も継続が必要である。 ・次年度の募集拡大に向け、更なる積極的な情報発信が必要である。	○より多くの市民に本校の魅力を知ってもらうため、積極的な情報発信を行う。  □市内児童に直接本校の魅力を伝える。  △川口市外の児童に本校の魅力を伝える。	○学校ホームページの更新が充実、学校説明会や体験授業の更新が充実に取り組む。  □OB/OGによる母校訪問の内容を充実させ、本校の魅力が市内児童に直接伝わるようにする。  △塾や情報雑誌等、様々な機会を活用し、川口市外の児童・保護者に対して、本校の魅力を発信する。	○ホームページの更新は頻繁に行い、閲覧数が大幅に伸びた。学校説明会では、生徒による相談コーナーを設置し、好評をいただいた。  □母校訪問については、計画通りに実行し、小学校の先生方からも温かい言葉をいただいた。	A	△さいたま市は塾のネットワークを使って効果的に周知されたが、それ以外の地区では、更なる周知媒体の開拓が必要である。今後も更なる周知に取り組む。
教育課程	・	○	○	○	A	・生徒が生き生きと学ぶ姿が素晴らしい。 ・掲示等の工夫も見られ、学習環境が整っていた。
	・	○	○	○	B	・一貫生と高入生が競い合うような教育課程を策定してほしい。
開かれた学校づくり	・	○	○	○	A	・特になし
	・	○	○	○	A	・特になし
	・	○	○	○	B	・本校で学ぶ意欲のある川口市の児童が、今後もたくさん入るようにしてほしい。 ・施設、設備、備品等の環境の良さを、更に積極的に周知すべき。

学校関係者評価	
※実施日	令和8年1月30日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
・中高連携は大切なことで、今後も進めてほしい。	
・今後10年を見通した計画を策定してほしい。	
・引き続き、十分な教員数を確保すべき。	
・生徒が生き生きと学ぶ姿が素晴らしい。	
・掲示等の工夫も見られ、学習環境が整っていた。	
・一貫生と高入生が競い合うような教育課程を策定してほしい。	
・特になし	
・特になし	
・本校で学ぶ意欲のある川口市の児童が、今後もたくさん入るようにしてほしい。	
・施設、設備、備品等の環境の良さを、更に積極的に周知すべき。	

教職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員全員がペクトルを揃えて教育活動に取り組んでいる。</li> <li>・本校の取組の継承のため、新たに着任した教員に対して本校の特色や魅力を伝える必要がある。</li> <li>・一人一人がリーディング校の職員としての自覚と誇りを持ち続けなければならない。</li> </ul>	<p>○校長の「目指す学校像」の具現化に向け、教職員一丸となって取り組む。</p> <p>□学習に軸足を置いた本校の特色を共通理解することで、自覚をもって自己研鑽に取り組む教職員を育成する。</p> <p>◇誰からも信頼される教職員集団を育成する。</p>	<p>○職員会議や人事評価面談、また、普段のコミュニケーション等を通じて、教職員一人一人の意識の啓発を行う。</p> <p>□研究発表会への参加や先進校視察等を奨励する。また、研究授業の実施や教科部会の活性化を通じて、学校としての教科指導を確立する。</p> <p>◇各種主任を中心としたまとまりのある教職員集団とすることで、帰属意識を高めるとともにプライドを育み、信頼される教職員集団をつくる。</p>	<p>○機会をとらえ継続的に啓発を行った結果、教職員の意識の向上につながり、チームとしての一体感が感じられた。</p> <p>□限られた時間内ではあるが、以前よりも教科ごとに話し合う場面が多く見られるようになった。時間外に、個人の教科研究等に取り組む教員もいた。</p> <p>◇ペクトルは揃えつつも、各教員の特色・持ち味を生かした教育活動が展開できた。ストレスチェックでも、良好な結果が得られた。</p>	A	<p>□働き方改革の推進に伴い、勤務時間内にじっくりと話し合える時間を確保するのが困難な状況がある。ボトムアップの意見を取り入れながら、改善に取り組みたい。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> <li>・特になし</li> <li>・特になし</li> </ul>
施設・設備等の管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状のカリキュラムを実施する上での中高の連携はできている。</li> <li>・今後の募集拡大を想定した施設、設備の計画的な準備が必要である。</li> <li>・人の出入りの多い環境の中での防犯対策は大きな課題である。</li> </ul>	<p>○中高一貫校としての持続可能な施設、設備の活用並びに管理方法を確立する。</p> <p>□募集拡大に向けた施設、設備の計画的な準備。</p> <p>◇できる限りの最大限の防犯対策を行う。</p>	<p>○高校、高校事務室、市教委との連携を密にし、持続可能な活用並びに管理方法を確立する。</p> <p>□高校、高校事務室、市教委との連携を密にし、募集拡大に伴う変更点を洗い出し、遺漏なく準備する。</p> <p>◇安全点検、防犯対応訓練、警察等専門機関と連携した防犯対策（生徒の指導を含む）、防犯用品の設置等を計画的に行う。</p>	<p>○定期の管理職の打ち合わせ等を通じて連携を密にし、施設の円滑な活用・管理を行うことができた。</p> <p>□教頭を中心に高校との連携をした会議を設置し、教室配置計画を策定することができた。</p> <p>◇警察等専門機関の方を招聘した訓練を実施するとともに、その助言に基づいた防犯用品等の設置を行なうことができた。</p>	A	<p>□施設や備品などの予算に関する事項について、更に連携を深めることで遺漏無く準備したい。</p> <p>◇本校の特性上、防犯対策については特段の意識を持ち続ける必要がある。教職員・生徒共に「自分の安全は自分で守る」という意識を高めたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> <li>・特になし</li> <li>・安全担当の指導になるが、道交法の改正や募集拡大に伴い、自転車の安全指導については更に徹底してほしい。</li> </ul>	